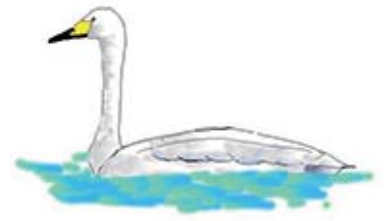


厚岸水鳥観察館だより  
べかんべうし  
別寒辺牛

●問い合わせ／水鳥観察館 ☎52-5988



野鳥の『渡り』について

厚岸湖では、今季、おおよそ560羽～1,080羽のオオハクチョウが越冬しました。3月には、多くが北上を始めます。他にもカワアイサやマガモ、ホオジロガモなどのカモたちも北を目指して旅立ちます。一般的に『渡り』とは、繁殖地である北への移動、越冬地である南への移動のことをいいます。

町内で冬に確認できる野鳥は、越冬のためにロシアなどから南下する『冬鳥』。繁殖のために遠くはオーストラリア、東南アジアなどから北上する『夏鳥』。一年中、同じ場所にいるスズメやシジュウカラなどを『留鳥』。悪天候や強烈な寒波で押し出されてくる『迷鳥』として分けることができます。



多くの野鳥は夜間に渡りを行います。渡りを研究したプラネタリウムの実験では、北極星を中心に約30度の位置にある星を見ることがわかりました。「鳥って『鳥目』じゃなかったっけ」と思いませんか。実は、鳥は鳥目ではありません。特に『渡り』をする野鳥は、外敵に襲われる可能性がある日中を避けて夜間に飛ぶほうが多いのです。町内でも、夜間にオオハクチョウが鳴きながら飛行するのを見た人もいるのではないのでしょうか。ニワトリやペットの鳥の中には、鳥目のものもいるようですが、実際には、ただ慌てているだけのものも多いのです。これら各種センサーを駆使して、『渡り』をする野鳥は、まるでカーナビのように自分の飛行ルートを確認して飛行しているのです。



では、なぜ鳥は『渡り』をするのでしょうか。それは、何千何万年をかけて、よりよい環境を求めてさまざまな生き物と競合しながらでき上がった、翼を持つ鳥の生き残り戦略が理由のひとつとされています。繁殖や越冬に適した場所を、季節ごとにほかの生き物との競合を避けながら作り上げていった鳥ならではのシステムです。

それでは、野生生物である渡り鳥たちは、地図を持っているわけでもないのに、どうやって毎年同じルートを行き来することができるのでしょうか。実は鳥にはさまざまな能力が備わっています。地球の地磁気を感じ取る能力は、地球の南北を知ることができます。人間の耳には聞こえない低周波を聞く能力は、大きな河川の河口などから発生するその川特有の音を聞くことができます。晴れていれば太陽の位置を見ながら方位を決めて飛行ができます。

さて厚岸湖・別寒辺牛湿原が登録されているラムサール条約は、①渡り鳥が安心して『渡り』を行うことができるようにさまざまな国の重要な湿原を保全すること。②湿原を保全することにより、人間の生活に必要な湿原の恵みを永続的に利用可能にすること。この2点を両立することからスタートしています。

